

# 大町ダム完成30周年記念シンポジウム

## これからの時代の暮らしの安全とダムの活かし方を考える

13:10～13:35 開会・イントロダクション

13:40～14:40 第1部

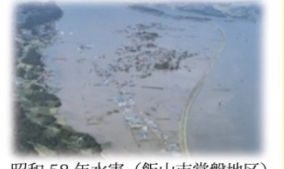
### 「大町ダムと防災」

ダム整備や治水対策のきっかけとなった災害の体験談を紹介しながら、国のダムや河川整備の解説をふまえ、上流から下流までを見据えた広い視野で治水対策について自分たちでできることは何かを考えます。

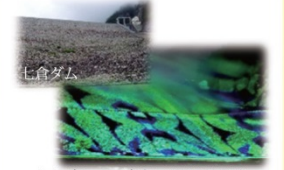
- コーディネーター  
山崎 登 (NHK 解説主幹)
- パネリスト  
相模一男 (昭和44年水害体験者)  
小山邦武 (昭和58年水害体験者)  
伊藤和久 (北陸地方整備局河川部長)



昭和44年水害(高瀬川上流域)



昭和58年水害(飯山市常盤地区)



七倉ダムでのデジタル掛け軸上映



大町・高瀬川谷の3つのダム

14:50～15:00 映像 神秘的映像とトランペットの響き  
夜空のトランペット in 高瀬川谷・七倉ダム

15:00～16:40 第2部

### 「私たちの暮らしと共創するダム」 ～その様々な顔を探り未来に活かす術を探る～

文明の発展とともに誕生し、様々な顔を有するダム。第2部では、その様々な顔を私たちの暮らしとの関わりという視点で見つめなおし、その未来図について、専門家の知恵、河川管理者、流域自治体の取り組み等をもとに考えます。

- コーディネーター  
扇田孝之 ((有)コミュニケーションデザイン研究所 代表)
- パネリスト  
鈴木敏正 ((株)日本総合研究所 フェロー)  
柴田いづみ (滋賀県立大学 名誉教授)  
豊田政史 (信州大学工学部 助教)  
加藤久雄 (長野市長)  
牛越 徹 (大町市長)  
堤 達也 (千曲川河川事務所長)

16:40 閉会

## イントロダクション 「大町ダムのこれまでのあゆみ」

国土交通省北陸地方整備局大町ダム管理所  
所長 渡部 修

### ■大町ダム整備の背景

大町ダムがある高瀬川は、その源を槍ヶ岳に発し、途中、籠川、鹿島川、農具川と合流した後、安曇野市明科下押野地先で犀川に合流する河川で、流域面積は約445km<sup>2</sup>、流路延長56kmに及ぶ。勾配が急で、上流に降った雨が一気に流れ込み、たびたび洪水の被害を起こしてきた。

昭和20年代から30年代にかけて千曲川、高瀬川の流域では度重なる水害に見舞われた。昭和44年8月11日には、高瀬川上流で大雨が降り、その数日前から降り続いた雨の影響もあって、流域に大きな被害が発生した。高瀬川上流では8月7日～12日の6日間で500mm以上の雨が降った記録が残っている。



### 大町ダム整備の背景 - 水害の歴史を振り返る -

年月	千曲川流域での被害
昭和20年10月	台風の影響で死者42人、全壊家屋102戸、半壊家屋4戸、床上浸水家屋2,204戸、床下浸水家屋4,843戸
昭和24年9月	キティ台風。死者1人、全壊家屋45戸、半壊家屋187戸、浸水家屋1,478戸
昭和33年9月	台風により長野県では東部に140～200mmの大雨。その影響により、千曲川水系の中小河川が氾濫決壊し、死者9人、全壊家屋9戸、半壊家屋62戸、流失家屋19戸、床上浸水家屋564戸、床下浸水家屋2,807戸
昭和34年8月	台風7号により3日間の総雨量は、千曲川流域の山岳や層川上流で300～400ミリ、平地では50～150ミリを記録。死者45人、全壊家屋1,391戸、半壊家屋4,091戸、床上浸水家屋4,238戸、床下浸水家屋10,959戸
昭和36年6月	梅雨前線停滞の影響で死者107人、全壊家屋903戸、半壊家屋621戸、床上浸水家屋3,170戸、床下浸水家屋15,351戸

年月	被害内容
昭和28年9月	台風13号により高瀬川が氾濫
昭和34年8月	台風7号により高瀬川、鹿島川、乳川が氾濫。堤防や護岸が決壊。大町、平、常盤、社の全地区堤防決壊。損害額約5100万円(大町市)
昭和35年8月	台風11号、12号が相次ぎ、高瀬川が氾濫。大町高根町他6か所決壊。損害額約3400万円(大町市)
昭和36年6月	梅雨前線による豪雨で高瀬川が洪水。大町市で被害。常盤、社地区、損害額4億2600万円(大町市)